

そけいヘルニア（脱腸）について

そけいヘルニアとは、太ももの付け根付近（そけい部といいます）に生まれつき欠損部があったり、加齢などで筋膜などが弱くなることが原因で、お腹の中にある臓器（主に腸など）が腹膜という袋（ヘルニア嚢といいます）に覆われて飛び出してくる病気です。「腸が脱出する」という意味で、昔から脱腸といわれています。

小児と成人のヘルニアでは発生原因が異なり、小児では生まれながらに起こるのに対し、成人特に高齢者では筋肉や筋膜が弱くなることで起こります。

症状は、立ったりお腹に力を入れると腸が脱出しそけい部がふくらみます。しかし、横になったり力を抜くと腸がお腹の中に戻りふくらみが消えたり、ふくらみを手で押すとグジュグジュと腸がお腹に戻るのが普通です。また、多少の痛みや不快感を伴う場合がありますが、ふくらみが戻れば症状はなくなります。

ヘルニアの嵌頓（かんとん）は怖い！ 脱出した腸が横になると戻ったり、手で押して戻る時はいいのですが、腸がお腹の中に戻らなくなった状態を“ヘルニアの嵌頓”といい、強い痛みとお腹が張ってガスなどが出なくなる腸閉塞になります。そのままでは脱出した腸が血流障害をおこし腐ってしまい生命にかかわってきます。ヘルニアの嵌頓が起きた場合には、急いで専門医（外科）を受診して医師に手で戻してもらう必要があります。それでも戻らなければ緊急手術が必要です。

自然に治るか？ 小児では自然に治ることもありますが、成人では筋膜などが弱ったために起こりますので、自然に治ることはありません。また、ヘルニアバンドで圧迫されている方もいらいしやいしますが、根本的には治りませんので手術が必要です。小児では全身麻酔、成人では腰椎麻酔で手術を行います。手術は小児ではヘルニア嚢を根元で縛ります。成人ではさらに弱った筋膜を下図のような人工素材（マーレックスメッシュ）を使って補強します。小児では翌日に退院できますが、成人では約1週間の入院が必要です。

退院後は再発予防のために約1ヶ月程度は無理な運動は避けた方がいいでしょう。

